

東北農林専門職大学及び附属農林大学校の学生と県議会議員との意見交換会開催状況

開 催 日 時	令和7年9月17日（水）10時30分～11時45分
開 催 場 所	東北農林専門職大学（新庄市）
出 席 議 員	田澤伸一、佐藤寿、伊藤香織、松井愛、柴田正人
参 加 者	東北農林専門職大学生10名、附属農林大学校生14名
意見交換の概要	<p>学生2名により活動報告が行われた後に、「山形県の農林業の未来」について、5班に分かれてワークショップ形式で意見交換を行った。また、各班で取りまとめた内容を学生が発表した。</p> <p>【主な意見等の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化に対応するため、南国の果物であるマンゴーやパインアップルなどを取り入れるのはどうか。また、品種改良して熱に強いものを作るのはどうか。ただし、課題として寒波への対応があるので、リスク管理も大切だと考える。 ・米について、最近米価が上がっている。計算上は需要に対し供給が足りているが、実際の現場では足りていないことがあると考えられるので、しっかりと増産を図っていくことが大切である。また、生産者への対価と販売価格を分けて考える必要があり、仲介に当たっては流通の簡素化が必要ではないか。 ・山形県産の農作物をどうPRするかについて、あまり知られていない伝統野菜など表に出ない野菜を前面に出していくとよいのではないか。 ・農林業の未来を広げるために、産地直売所でイベントを開催したり、話し合いの場を設けることがよいのではないか。 ・新規就農について、新規参入者には補助制度などが色々あるが、それを利用することは心苦しいと感じる方もいるので、もっと新規参入者にも優しい補助制度を作ってほしい。 ・山形県のブランド力について、さくらんぼの話題が薄れていったりだとか、米沢牛や尾花沢牛など何に焦点を当てたいのか不明瞭と感じるので、大きな枠でブランド力をつけていくべきなのではないか。 ・収入を増やすために差別化や生産性向上が必要であり、若い世代がリーダーとなって引っ張っていくことで、農業は収入の面でも魅力的である多くの人に伝わるのではないか。 ・農業には高額な機械や機材が必要になるので、様々な栽培方法にチャレンジしようとする際の資金の問題を支援してくれる制度があるとよい。 ・林業の未来について、きつい、汚いという林業のイメージを改善するために、スマート林業の普及が必要。また、担い手不足の解消と木材の利用拡大のために、木造の建築物を増やしていきたい。